個の確立と他との協調

学校法人 郡山開成学園報

尊敬・責任・自由

開成の杜

第84号 ●2010年12月17日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) http://www.koriyama-kgc.ac.jp ●発行人／学園長 関口富左

初冬の附属高校　（撮影　山口郁生）

老樹に想う

学園長 関口富左

学園の老樹からいつの間にか葉が落ち、大空に伸びた枝が見事に広がる。ここ開成の杜は初冬を迎え、各々静かに時を振り返っているようである。

春夏秋冬、ときは一時も止まらず、変化をもって迫ってくる。年を重ねてくると、日時に迫られることはある種の不安と、自己の行動を考慮せざるをえないという思いを持つ。

かつては巡り来る季節の中で、安心な思いと感謝の思いで時を過ごし、自然そのものを受け入れ、明日に希望をもった。

しかし、老いてくると容易でない思いのほうが先にくる。世の中の動きが早いことや、日々の異変や事件により不安にさらされることで、落ち着かない思いになる。これが老いというのだと、つくづく思い見るこの頃である。

そんなことでは元気な学生・生徒・園児に対応できないと心に恥じる。若いときの素直さを思いの中から引き出して、対応するしかないと、自らを励ます。

年の瀬が近づき、日の短さも加わり、忙しい思いにかられる時である。学生、生徒は卒論や就職・進学、進級への対応の時期であり、明るい表情のなかにも、緊張感が感じられる。園児は寒さに負けず、歓声を振りまいて園庭を走り廻っている。

案ずることはない。今という時代で育ち、その空気と場と在り方を得てきた若者は、清々と伸びている。

枝の先まで繊細な姿を現した裸木は、芽吹く季節に自分の生命を精一杯発揮しようとする力強さが見られる。若者も、芽吹きのときへ向け、苦悩や努力を堆肥として、思い切り成長することを願う。

（H22・12・7記）

エコランキング・私立大学の部
堂々の連続二位
自然エネルギー導入部門は一位

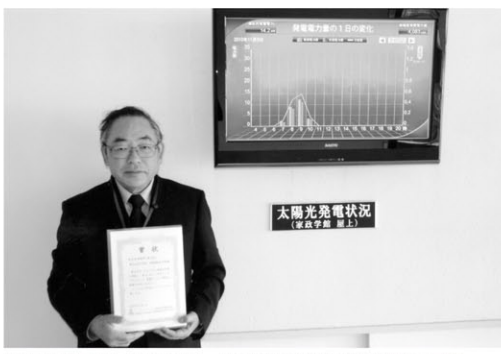
全国の大学の地球温暖化対策の取組み方を評価する「第二回エコ大学ランキング」私立大学の部で本学が二年連続二位に選ばれた。また、自然エネルギー導入部門では一位に選ばれ本学の取組みが評価された。

エコ大学ランキングはエコ・リーグ（全国青年環境連盟）Campus Climate Challengeの主催で今年で二年目。全国七百七十四校の大学環境対策担当者にアンケート調査をし、回答のあった百五十一校の取組み方を点数化し評価されたもの。調査内容は「CO_2、排出量・エネルギー使用量・廃棄物」、実施している「温暖化対策」「学生への教育」「学生との活動連携・協働」の視点で調査が行われた。本学は得点が四百六十二点。一位の日本工業大学（埼玉県）との差は九点だった。

本学では「エコマインドをもった学生や生徒の育成」を第一に掲げ、三ケ年計画で平成二十一年からエコキャンパス推進工事に取り組んだ。屋上の太陽光発電パネルの新設など施設整備に取り組み、廃棄物やCO_2の排出量の削減を図っている。

太陽光の発電状況が一目でわかるモニターも学内に設置され、学内の電気の一部に使用されていることから、自然エネルギー導入部門第一位に輝いた。

学生のエコ検定講座の参加者も年々増加。昨年は二十五人が合格するなど環境に対する意識も高まっている。環境委員会委員長の角野猛教授は「評価されて嬉しい。これからも自然体で学生とともにエコマインドの浸透を図りたい」と喜びを述べた。



1日の発電量がわかるモニター・受賞を喜ぶ角野環境委員会委員長

「中核市サミット二〇一〇」郡山市で開催

短期大学部幼児教育学科准教授　滝田　良子

北海道東北地方で初めての「中核市サミット二〇一〇」が十月二十八日、郡山市で開催された。

地方分権、中核市制度の充実を図るべく、地域活性化や子育て支援、地球温暖化対策など、「行政課題が山積する今、地方の拠点として中核市はどうあるべきなのか」を四分科会にて話し合われた。

第二分科会のコーディネーターの役を務め「地域における子育て支援施策について」話し合いをもった。

概要については、少子化・核家族化の進む中、子育てに関する不安や負担感・孤立感など、経済不況に伴って様々な課題が生じている。国においては「子ども・子育てビジョン」を策定するとともに、早急に「子ども・子育て新システム検討会議」を設置し、その具体的制度について検討中である。このような中、各中核市において、独自の子育て支援についての取り組みや、課題に中核市として、今後重点的に追っていくべき子育て支援施策（ハード面・ソフト面）などについて議論が活発に行われた。

今回の中核市サミットを契機に山積する課題をさらに分析し、学園において、学生指導にどう役立てるか検討しなければならない急務であることの重要性を改めて認識した会議であった。

滝田准教授がコーディネーターを務める

地球温暖化防止教育・普及啓発部門で環境大臣表彰を受ける

本学園は十二月一日、本年度の地球温暖化防止活動環境大臣表彰で「環境教育・普及啓発部門」の受賞団体に東北地方で唯一選ばれた表彰式は十五日に都内のホテルで行われた。

本年度の大臣表彰は五部門に百四十二件応募があり、二十六個人・団体が受賞した。環境教育・普及啓発部門には六十件の応募があり、八個人・団体が受賞した。

お年寄りと楽しく交流
大学・人間生活学科の学生

本学人間生活学科福祉コースの学生と本宮市との「地域連携事業高齢者いきいき交流」は十月九日本宮市の市民元気応援プラザ「えぽか」で行われた。お年寄りと学生が楽しい時間を過ごした。本学の一年生十人と、市内岩根中町ふれあいサロンに所属する十人が参加した。学生とお年寄りは最初に「幸せなら手をたたこう」を一緒に歌った。また、子どもの頃の呼び名を発表したり、白紙のお面をつけて自分の似顔絵を描くなど楽しんだ。

自画像に挑戦する参加者たち

平成二十二年度第二回教養講座
「脳を知り、脳を鍛える」

講師　東北大学加齢医学研究所
川島　隆太　教授

平成二十二年度第二回教養講座は十二月一日、建学記念講堂で開催された。講演は東北大学加齢医学研究所教授の川島隆太氏。

「脳を知り、脳を鍛える」と題して講演した。

以下要旨。

脳は毎日、意識してたくさん働かせることで働きがよくなります。午前中が一番よく働き、午後には少しずつ低下し、夜にはさらに低くなります。規則正しい日々の生活が若々しい脳を保ちます。三食、特に朝食は必ず食べ、早寝、早起き、適切な運動を継続することが大切なのです。脳を繰り返して使い、脳を元気にし、元気になった脳を使って人生を謳歌してほしい。

講演する川島隆太教授

平成二十三年度入学者選抜始まる

来春入学する大学生と短期大学部生の選抜入試が始まった。AO選抜Ⅰ期が八月二十八日にスタート。十月十六日に行われた面接でⅢ期までの選抜を終えた。

合格者は入学するまでの課題としてレポート提出を求められている。

附属高校生による高大連携生選抜は十一月十二日に実施された。

指定校推薦生、特待生、公募推薦生Ⅰ期、特別生Ⅰ期の選抜は十一月十三日に行われた。

特待生、公募推薦生選抜は面接と小論文、調査書、基礎能力調査が採点の対象となり、面接、小論文、基礎能力調査が百点、調査書が五十点。

公募推薦生Ⅱ期、特別生Ⅱ期の選抜は大学が十二月十一日、短期大学部は十一日と十二日に実施される。この後、一般生Ⅰ期が年明けの一月十七日に願書受付を開始して一月二十八日に締め切る。選抜日は大学が二月二日、短期大学部は二月三日。続く一般生Ⅱ期は二月七日から受け付ける。

並行して大学院、大学三年編入、短期大学部文化学専攻の選抜も行われる。大学三年編入は人間生活学科と食物栄養学科で各々十名、専攻科は二十名を募集している。問い合わせは教務部あるいは入学事務部まで。

＊また、学業に優れ、健康で他の模範となる人物を育成する本学独自の「学校法人郡山開成学園創立者関口育英奨学金制度」の二十三年度大学・短大入学者の応募資格を次のように変更した。

一、郡山女子大学・郡山女子短期大学部へ推薦入試で合格した高校生並びに一般入試Ⅰ期で合格した高校生も受付対象とする。問い合わせは経理部まで。

※平成二十四年度から特待生を希望する受験者は、保護者の「源泉徴収票」（写し）、または、「確定申告書等」（写し）を「入学願書」「出身高等学校長が証明した調査書及び推薦書」に添えて出願するものとします。

郡司尚子院生学生奨励賞受賞

本学の郡司尚子大学院生（助教）が九月に行われた第五十五回日本家政学会東北・北海道支部主催の研究発表会（岩手大学）で研究奨励賞を受賞した。本研究は広井勝教授の指導のもとで行われたもので、発表テーマは「福島県産エゴマの脂肪酸組成および一般成分について」であった。講演内容は福島県の会津、田村両地区の白および黒エゴマの脂肪酸組成と一般成分、ミネラルの組成について分析し、それぞれの特徴を明らかにしたものである。

総会の席で発表した学生の中から四名の学生奨励賞の紹介があり、本学の郡司尚子院生がその一人に選ばれた。他の三名は岩手大、弘前大、福島大の院生で、私立大学で選ばれたのは本学のみであった。

奨励賞を受賞した郡司尚子院生

三年連続十四回目の県大会優勝

第六十三回全日本バレーボール高校選手権大会出場決まる

県代表決定戦は十一月二十七日、福島市国体記念体育館で行われた。地区予選を順調に勝ち上がり、県大会では、田村、相馬東をストレートで破り、決勝は宿敵保原。昨年度のFTV杯決勝で敗れた相手を三一一で破り、三年連続十四回目の優勝を決めた。本校は苦戦しながらも今夏のインターハイに続く全国大会の切符を手にした。

第一セットは一八―二〇から逆転したが、第二セットは最大六点リードから奪われた。第三セットは一進一退の攻防の末、保原のミスから反撃に転じて後藤選手(二年)や宗像選手(二年)のスパイクで逆転し、このセットを奪うと、第四セットも終盤に再逆転し、マッチポイントも保原のサービスミスから全国大会出場の切符を手にした。

第4セット、後藤杏奈選手が13点目を決める

試合後、高橋監督は「ミスも多かったが、攻めの姿勢は最後まで保ち続けられた。全国大会では自分たちのプレーをする」と語った。

インターハイでは一セットも奪えず、二連敗で予選リーグ敗退。高橋主将(三年)は「身長のハンディを気にせず、全員で拾ってつなぐ自分たちのバレーを徹底させたい」と全国大会への決意を語った。

大会は一月五日から東京体育館で開催される。

大会初日の5日に聖カタリナ女(愛媛)と対戦決まる

かわいい絵が並ぶ

ぼくとわたしの作品展

附属幼稚園の作品展「ぼくとわたしのさくひんてん」が十月二十四日から二十七日まで建学記念講堂展示ロビーで開かれた。

学習成果の発表の場として毎年開催しており、今年で十七回目。年少組から年長組までの作品百二十三点が展示された。卒園記念合作の屏風絵もある。会場には子どもたちの動物や家などを描いた作品が一堂に並び、保護者は「かわいい」などと歓声を上げながら見入っていた。

園児の力作が並んだ作品展

平成二十二年度
大学家政学部食物栄養学科

第四十二回卒業研究発表会

大学家政学部食物栄養学科の第四十二回卒業研究発表会が十一月二十六日、建学記念講堂で行われ、学生がこれまでの研究成果を発表した。

四年生約五十人が個人やグループで研究した二十八テーマをスクリーンを使い説明した。

「糖尿病患者の食生活について」「若年女性の葉酸摂取の実態調査」「農作物の流通・販売の変化について」などのテーマで調査の結果や考察などについて発表した。参加者らはさまざまな内容や研究結果を興味深く聞いていた。

卒業研究発表を行う学生たち

ゴミゼロキャンペーンで

資源リサイクルを訴える

郡山市主催のゴミゼロキャンペーン「リサイクルを考えるステージ」が十月二十三日にイトーヨーカドー郡山店で開催され、短大・幼児教育学科の学生五十人がボランティア活動の一環として協力、好評を博した。

ステージでは学生たちがリズム劇、シンデレラをテーマにしたオペレッタ、パネルシアターなどを通して、資源のリサイクルやタバコのポイ捨ての防止などを市民に呼びかけた。

ゴミゼロを歌と踊りで訴える幼児教育学科の学生

高校弁論大会最優秀賞と全国青年弁論大会中高の部二位ダブル受賞の快挙

古川ほのかさん(二年)

第二回県高校弁論大会は来年度本県を中心に開催される第三十五回全国高校総合文化祭(ふくしま総文)弁論部門県予選会を兼ねて十一月十日、白河市の東文化センターで開かれた。ふくしま総文弁論部門のプレになった今大会には県内から十三人が出場し、本校の古川ほのかさん(二年)が最優秀賞に輝き、来年八月に同会場で開かれるふくしま総文弁論部門県代表に推薦される。

古川さんの演題は「女性の大いなる可能性」。男女共同参画社会における女性の在り方や考え方などを語った。

古川さんは群馬県で開催された第五十五回文部科学大臣杯全国青年弁論大会の中高生の部で優秀賞に輝き、第二位に当たる草津町長賞も同じテーマで受賞している。古川さんは二つの大会の受賞を機に「学校に弁論部をつくりたい」と意欲を語った。

最優秀賞を受ける古川ほのかさん(2年)

学びの旅 附属高校修学旅行

この美しい海をいつまでも

沖縄の料理と踊りを楽しむ

●沖縄の文化を探る旅

今年度の修学旅行は、全学年が一緒に沖縄を巡ってきました。二日目はそれぞれの学科やコースの特性を生かした日程を組みました。

私たち食物科は、沖縄独自の食文化を学ぶため、恩納村漁業協同組合の海ぶどう養殖場や沖縄ハム工場、沖縄黒糖工場を訪れました。難しい海ぶどうの養殖に挑んだ苦労話や沖縄の米軍基地と密接に関係する沖縄ハムの工場。サトウキビから黒糖を作る過程など興味深いことばかりでした。

また、現地の料理学校で郷土料理の実習も行いました。

亜熱帯という、体験したことのない自然と密接につながっている食文化を知ることで、食に関する知識が一層深まり、さらにクラスの絆も一層深まった有意義な旅となりました。

(食物科　佐藤美也子)

●ハイタイ(こんにちは)沖縄!!

私たち二学年は、沖縄の文化と歴史を学び、美しい自然を体験してきました。人文学系コースの四・五組は二日目に美ら海水族館を見学したあと、高速艇で水納島に渡り、美しい自然の中に思う存分浸ってきました。三日目は南部戦跡地を巡り、沖縄戦を体験した方の講話をお聞きしました。改めて戦争の恐ろしさを感じ深く考えさせられました。

また、首里城では沖縄の歴史と文化をより深く学ぶことができました。

この修学旅行では、沖縄の歴史や亜熱帯の自然を肌で感じることができ、また、沖縄の人々の温かさは今でも忘れることができません。この体験で感じたすべてのことを忘れず、今後の生活に生かしていきたいと思います。

(普通科人文学系コース　平栗静香)

特集 もみじ会 第64回

開成の杜の木々が美しく紅葉し始めた10月2日、3日の両日、学園創立以来続いている「もみじ会」が盛大に開催された。来賓、父兄、同窓生、地域の皆様方など3,795人の参観者で学園は賑わい、学生・生徒・園児たちの発表・展示に熱心に見入る姿が随所で見られた。幸い天候にも恵まれ、充実した2日間だった。

「自然を凝視(みつめ)て新たな学を」

10月2日・3日開催

生活芸術科2年　星　美幸さん

大学院・大学

人間守護の理念を基として研究と実践の成果を分かち合う

【大学院・人間生活学研究科】

「戦後の食生活の変遷」―人間守護の理念を基に考える―。

戦後の食生活の変遷を辿り、人間守護の理念を基に食生活のあり方について考察した。

研究の成果をパネル展示

【家政学部・人間生活学科】

統一テーマは「今、求められるQOLを考える」。

生活総合コースは家庭における「こしょく」の問題、福祉コースは高齢者の孤立の防止策、建築デザインコースは市街地での狭小住宅の住まい方を研究。

郡山市における高齢者の実態を説明

【家政学部・食物栄養学科】

「健康寿命を伸ばす」。

世界一の長寿国日本、長寿の質を高め、どうしたら健康寿命の延伸が図られるかについて発表した。

研究の成果に見入る来場者

【レストランもみじ】

大学・食物栄養学科と短大食物栄養専攻が合同で開設。料理はすべて学生の手作り。松花堂弁当、わくわくランチなど、学生の真心込めた料理が大人気。

真心がこもった学生の調理

短期大学部

【家政科福祉情報専攻】

「新しい家庭生活を目指して」。

学科内容、手話の紹介、手芸・染色作品の展示、手作り菓子と小物の販売、「組みひものキーホルダーを作ろう」などの四講習会を開催、今年も大人気。

人気の組みひものキーホルダー作成

【家政科食物栄養専攻】

「健康と食を考える」。

宇宙飛行士や民間人の宇宙旅行者など、宇宙に長期滞在することに伴う特殊な生活環境の食生活のために開発された宇宙食について展示・発表。

宇宙食について展示・発表

【幼児教育学科】

「思い出残そう　みんなの笑顔」。

授業と学習で培った知識・技術を基に来場した子どもたちと、つくる・あそぶを中心に創造的かつ楽しい体験の場を実現した。

子どもたちも大喜び

【生活芸術科】

絵画、彫刻、デザイン、コンピューターグラフィックス、工芸、挿花、近代詩文書部門等七部門で発表した。

見事な出来ばえ

【音楽科】

「もみじ会演奏会」の運営はすべて学生の運営委員が担当。ピアノ演奏、独唱、二台のピアノ、重唱、管弦楽器、合唱等のアンサルなどが行われた。

学生には貴重な経験の場

【文化学科】

今年のテーマは「草木の博物学」。古くから社会的・文化的に意味づけを与えられてきた自然界に自生する草木を、民俗学、宗教学、日本史、考古学からさぐる。

自然界の写真に見入る参加者

大学・短大学友会

学友会は、茶道、食品化学研究、フォークソング、モダンジャズ、ダンス、タッチフットボール、フットサル、着物、水泳、手芸同好会、芸術研究同好会、スポーツ栄養研究、女性史研究、バドミントンのクラブと同好会が活動の発表・展示を行った。

【茶道部】

「一期一会」。慎思庵にて日頃の成果を発表。もみじ会にふさわしく秋の季節に合った道具やお花でおもてなしをした。

一期一会

【モダンジャズ研究会】

「MOMIJI・JAM」。スタンダードな曲からビッグバンドの曲まで様々なステージは大好評。

もみじ会を盛り上げる

【ダンス】

「だんす　ダンス　DANCE」。自分たちで創作したダンス！昨年以上の出来ばえ。

大賑わいの建学記念講堂前

【着物クラブ】

「着付け体験～浴衣、着てみませんか？～」。希望者に浴衣を着付け、記念撮影や散歩も。

希望者に浴衣の着付け

附属高等学校

教科や学級、部活動などで成果発表が行われた。充実した内容で好評だった。

【食物科】

「どんぐり食堂」を開設。

食物科の生徒全員が、調理、会計、販売、ウェイトレスの仕事を担当。美味しいと長蛇の列。

緊張の瞬間

【音楽科】

「もみじ会演奏会」。一・二年生による、ピアノ、管楽器、声楽のアンサンブルによる演奏。

ピアノアンサンブル

【美術科】

「美術授業作品展示」。授業において制作した課題作品を展示。

課題作品の数々を展示

生徒会

十五部が活動の成果を発表。

【第十四回「百人一首」カルタ取り大会】

学年別クラス対抗での対戦。優勝は、一学年が一年二組、二学年が二年二組、三学年が三年六組。

耳と目と手先の真剣勝負

【新体操部】

「2010　動きの芸術」。個人演技（ロープ・フープ・ボール）、団体競技（フープ）、ダンスやバレーなどの演技を発表。招待演技も披露。

美しく！　華やかに舞う！

【マーチングバンド部】

「演奏・演技発表会」。日頃の練習の成果を発揮し、お客さんにマーチングの楽しさや美しさを披露。

見事な演奏と演技を披露

【華道部】

「暮らしに花を」。「身近な花を楽しむ」。小原流の先生をお迎えしての日頃の成果発表。テーブルフラワーやフラワーケーキなど、身の回りの可憐な花々で作った作品も紹介。

身の回りの華麗な花々を紹介

【書道部】

「書に親しむ」。生徒たちが楽しんで仕上げた半紙、画仙紙などの様々な作品を展示。体験コーナーでは一般の方も書の楽しさを体験。

学習の成果を発表

【科学部】

「楽しい理科（Ⅱ）」。

小学生から大人まで、興味・関心が湧くような実験。

楽しい実験

同窓会（共催）

大学・短大・高校の三同窓会が合同企画。

同窓会館設立のためのバザー。

会員が持ち寄った物品には掘り出し物がいっぱい

環境委員会

「環境型社会を目指す本学園の環境対策について」。

本学園の環境方針第一の「エコマインドを持った学生・生徒の育成」について発表。

本学園の取組みの現状と効果について説明

附属幼稚園

【ぼくたち、わたしたちの作品展】

日頃の遊びの中で子どもたちが描いた絵を年齢別に発表。いろいろな素材（紙粘土、色画用紙）を使って、工夫しながら制作したものも発表。

良くできてるネ！

【フットサルクラブ】

「Enjoy！フットサル★Love!!」。フットサルを知ってもらい、好きになってもらうため、誰でもできるゲームを披露。

ナイスシュート！

【高齢者招待会】

ケアハウスにお住まいの方々をご招待。敬老、福祉の精神を養った。

学生の案内で学内の見学

幼稚園父母会

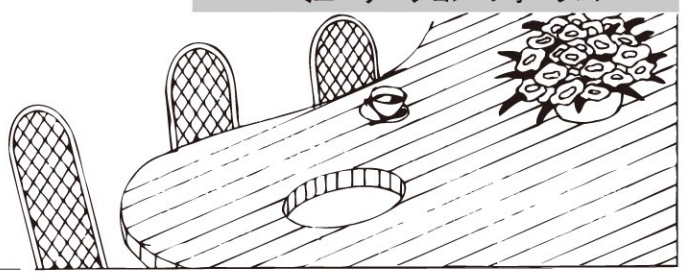
【こどもたちへのプレゼント】

各クラスの父母によるリサイクルで作ったおもちゃを販売。

子どもバザー

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



イラスト／鈴木愛唯（2年生）

芸術館の風景

松田　理香

私のいる芸術館は学園の東側に位置し、正門の一番近くにある。数年前の耐震工事のお陰で見違えるようにきれいになり、教室内も明るい。

二階の研究室にいると廊下の様子がだいたいわかる。美術展の搬入日、朝から宗方先生の美しい声が響き渡り、スリッパ状になった靴をズタズタひきずる浅野先生の足音も聞こえてくる。久家先生の口笛がどこからともなく流れてきて、柔らかい声で挨拶をしているのがわかる。大石先生が手製のキーホルダーをコツコツ鳴らしながら研究室に近づいてきた。忘れた頃に渇いた咳をしながら小松先生が廊下の角を曲がって通り過ぎていく。音楽科のピアノの音色と学生達の元気な明るい会話、窓外の園児の弾けた挨拶も響いてきて〝今日も佳い日だ〟と、私は思う。

芸術館は楽しい。

卒業生は頻繁にやってくる。先生方は皆聞き手に徹するようだ。社会での切ない思いを伝えにくる卒業生に対処法などは指南しない。ゾウのようにワシワシと、周囲の木を踏み倒しながらひたすら突進しているような卒業生にも何も言わない。ただ、「何か創っているの？」と確認するだけだ。

先生方はやさしい。

週明け、研究室の流しで細いモヤシのようなものを発見した。びっくりして大石先生と謎解きをした結果、卒業生が持参したメロンの種がゴミ受けに残っていて芽吹いたらしい。

芸術館には毎日発見がある。

（短期大学部生活芸術科講師）

「知る」ということ

野中　亜依

著者

「文化学科に入学して自分が学んだことのない分野を勉強したい」。商業高校に通っていた私はそう思い文化学科に入学しました。授業内容は幅広く、どれも興味をそそるものばかりでした。地域から世界へ至る様々な文化・歴史を理解していくにつれ、今まで自分の知識というものがどれほど少ないものだったのかを感じました。それとともに新たな知識が増えるというのはとても楽しいもので、連鎖のようにひとつを知ればその次のことを知りたいと思うように、意欲的になることができました。

学生生活は想像以上に楽しく、今現在が一番充実している時間だと感じられるほどです。十月に行われた「もみじ会」では例年よりクラスの人数が少ない中、皆で協力しあい成功することができ感動すら覚えました。私は実行委員長という立場で、たくさんの障害に突き当たりました。そのとき支えてくれたのは文化学科の皆でした。一つの目標に向かって一致団結する〝仲間〟を感じることができました。

ともに笑い、悩み、そして本音で話し合う〝切磋琢磨〟という言葉がこれまでに合致する瞬間はないのではないかというほど、私は成長できたのだと思います。

文化学科は私に様々なものを与えてくれました。尽きることのない学びの意欲と熱意は、これからの私を創るうえで重要な要素になることに間違いないと確信しています。

（短期大学部文化学科二年）

剣は心なり

高橋　和代

著者

私は、松尾智美先生のご指導のもと、剣道と勉強の文武両道に励みたいという一心で本校に入学しました。剣道部に入部した当初に先生から「高校で勝負できる期間は二年四ヶ月」というお話をいただき、私は部員とともに全国インターハイ出場を目標として稽古に励む決意を固めたのです。技術面と精神面は表裏一体であり、先生からの「日常生活と部活動は七対三で、普段の生活で裏表がある人間は、どんなに練習を積んでも成績が上がらない」という教えは私の心にしっかりと刻まれ、これまでこの言葉を胸に技術面と精神面の向上に努めながら大会に臨みました。その結果、新人県大会優勝、選抜県大会二位、東北選抜大会三位という結果を残すことができ、また、個人戦では沖縄インターハイに出場することができました。しかし、これは私一人の力で達成されたものではありません。松尾先生をはじめ、ご指導してくださった先生方、厳しい練習を一緒に乗り越えてきた仲間、周りで応援してくださった方々のお陰です。

私の将来の夢は警察官です。「日常生活が大切」という松尾先生の教えは、高校の部活動だけではなく、大学での生活や部活動、そして将来の私をまっすぐ導いてくれる言葉であると思います。夢の実現に向けて、大学でも自分に限界を作らずに一生懸命頑張ります。たくさんの方への感謝の気持ちを忘れずに、常に自分を磨きながらお世話になった方々に恩返しをしていきたいと思います。

「剣は心なり」……。

初心を忘れず、私はこれからも前に進みます。（附属高等学校三年）

生活診断室

シリーズ 47

マスクの効用もいろいろ

郡山女子大学

准教授　茂木　光代

熱戦が繰り広げられた中国・広州アジア大会が十七日間の幕を閉じた。今回の大会ではオリンピック種目には正式に採用されていない競技も少なくなかった。知恵と頭脳を駆使し、マスク姿の選手同士が戦う囲碁競技もその一つである。言葉を出すことが禁じられていることからマスクを着用するとのことであった。

マスクといえば、昨年の今頃は新型インフルエンザの感染予防に備えて、巷にはマスク姿の人が溢れていたことは記憶に新しい。私もマスクの価格高騰や品薄を心配して、密かに買いだめした一人である。今年の冬はマスクを着用している人が去年の今頃の時期と比較して少ないが、ある専門家は、新型インフルエンザが予想されたほど深刻な被害をもたらさなかったことが原因の一つではないかと分析している。インフルエンザワクチン接種者の数字が予想されたほど伸びていないとの新聞記事もある。幸いなことに、チクリとした左腕と財布の痛みを感じながら、今年はワクチン接種を受けることができた。

インフルエンザの予防策として誰にでもできる基本的な実践項目には、ワクチン接種、手洗い、うがい、マスクの着用などが上げられる。特に、咳が出ている間は必ずマスクを着用し、使用後は必ずゴミ箱に捨てる習慣を身につけることが大事である。「咳エチケット」を実践することも必要である。早めのマスク着用は、軽口や失言の予防にも大きな威力を発揮する。恒例となっているサラリーマン川柳にはこんな句も詠まれている。「手抜きして　マスクの下は　ノーメイク」。この冬は、我が家の棚に山のように積まれたマスクを有効に活用しながら、心身の健康保持に努めたい。

私の本棚

広田照幸・伊藤茂樹著

『教育問題はなぜまちがって語られるのか？「わかったつもり」からの脱却』

日本図書センター

郡山女子大学家政学部人間生活学科

准教授　山本　裕詞

若者に対する古い世代の評価は、いつの時代も手厳しい。しかし、その背後には温かさも感じられる。「今の子どもや若者は大事なことを知らず、感情に流された思考や判断をしがちで、知性的でも理性的でもなく、ひ弱で頼りにならない」という言葉も、横丁の頑固オヤジの苦言であれば微笑ましい。しかし、これが中教審教育課程部会の議論をリードした審議委員の一人が持つ若者の印象で、新学習指導要領の必要性を説く文章の中で用いられたとなると首を傾げたくもなる。

そんな漠然とした違和感の正体が、本書を読むとスッキリと整理される。著者の一人である広田照幸氏は、今、最も売れっ子の教育学者の一人であるが、そんな彼が「わかりやすく面白く」「教育問題をどう考えていけばよいのか」を論じた。副題が「『わかったつもり』からの脱却」というのも示唆に富んでいる。

昨今の教育制度改革は、特筆すべきスピードで展開されている。本学もそれらへの現実的対応を迫られてきたが、改革そのものが、いかなる問題認識の下に生み出されたものであるのかを検証する視点は大切にしたい。対応に忙殺される中で「わかったつもり」に陥れば、頑固オヤジの温かさは失われてしまう。二人の著者に共通する「わかったつもり」を蔓延させる動きに対する舌鋒の鋭さと、若い世代への温かい眼差しは、我々に落ち着いて考える場が必要であることを再認識させてくれる。

NEWS 学園ニュース

タッチフットボール部 今期について

今年のタッチフットボール部は、秋のシーズンを通算四勝三敗の勝ち越しで終えることができた。なかでも、今まで勝利したことがなかった成城大学と文京学院大学にチーム史上初めて勝つことができ、大きな自信となった。

また、三連勝すれば全国大会となる東日本代表決定トーナメントで、二連勝し、全国大会まであと一つと迫った。

今年は他のチームに作戦をかなり研究されるようになり、苦戦する試合もあったが、キャプテン以下部員二十二名が心を合わせて、できるだけの準備をして試合に臨むことができた。来期も東北、関東、関西などさまざまな地区のチームと交流して、楽しいタッチフットボールを続けていきたい。

関東地区の強豪を破り意気上がる

弓道部 東北三部リーグで優勝 二部昇格はならず

弓道部は一昨年、東北地区大学弓道四部リーグで優勝、昨年は三部で戦い、着実に力をつけてきた。そして今年は十月に宮城県の石巻専修大学で行われた三部リーグ戦で、石巻専修大学、宮城学院女子大、いわき明星大を破り、三戦全勝でみごと優勝。十一月に二部昇格をかけて入替戦に挑んだ。

入替戦では惜しくも福島大学、宮城教育大学に的中数わずか一本差で敗れ、四大学中三位となって悲願の二部昇格はならなかった。

しかし、大学人間生活学科二年滝田怜子主将を中心に大学・短大の一、二年生で固めた若い弓道部はチームワーク抜群。来年はなんとしても二部昇格を果たそうと、今日も弓道場で燃えている。

来年こそ2部昇格を!

牛乳・乳製品利用料理コンクール 三人が優良賞を受賞

十月八日、福島市で開催された第三十一回牛乳・乳製品利用料理コンテストで附属高校の鈴木美砂（一年）さん、今泉莉奈（二年）さん、沢田香織（三年）さんの三人が優良賞を受賞した。

今年のコンテストには一般から高校生まで四百三十五点の応募があり、書類審査で選ばれた十人が料理を実演。おいしさや独創性、普及性などが審査された。

家庭寮いも煮会

色付き始めた安達太良山麓の美しい景色のもと、寮友会主催のいも煮会が県民の森（安達郡大玉村）で行われた。参加した寮生は学園バスで会場へ向かい、調理を開始。いも煮を始め、焼きいも、バーベキューと次々においしいメニューができあがり、皆で輪になり「いただきます」。友と語らい、自然に囲まれて食べる食事は格別だった。

午後からは広場でレクリエーションを楽しんだ。嬉々とした声が響き、思い出に残る一日を過ごした。

第二十九回 福島県高校総合文化祭

ポスター原画コンクール最優秀賞・柳沼理穂（三年）

第三十五回 全国高校総合文化祭（ふくしま総文）

CD録音代表・善方華美（二年）

第六十一回 県南美術展（油彩画）

短大・生活芸術科

佳作賞・草野順子（二年）

入選・坂内愛海（二年）、大槻未来、菅野結香、金久保美佳、菅野結香、須田成美、滝田祐子（一年）

附属高校・美術科

入選・小椋明日加、小針かなえ、高橋歩、角田未来、古川夏希、渡邉歩惟（三年）

第五十五回 郡山市総合美術展（油彩画）

短大・生活芸術科

奨励賞・笠原恵、鈴木愛唯（二年）

青少年賞・大槻未来、菅野結香（一年）

入選・五十嵐麻美、今泉友美、遠藤千鶴、草野順子、車田美樹、佐藤しおり、谷本梢、坂内愛海、星美幸、山田梨紗（二年）、金久保美佳、鈴木千遥、須田成美、滝田祐子（一年）

附属高校・美術科

入選（洋画の部）

高橋歩、古川夏希（三年）

入選（日本画の部）

柳沼理穂、渡邉歩惟（三年）

第十一回デザイングランプリTOHOKU

短大・生活芸術科入選・入賞者

奨励賞・菅野実咲季（二年）

期待賞・車田美樹、山田梨紗（二年）

入選・五十嵐麻美、今泉友美、遠藤千鶴、笠原恵、加藤梓、草野順子、佐藤しおり、谷本梢、坂内愛海、星美幸（二年）

「福島青年美術の展望」出品者

小松太志講師（生活芸術科）

八幡欽子さん（H15年卒）

柳沼智美さん（H19年卒）

長谷川裕美さん（H21年卒）

＊安達太良高原美術館「青－a o－」で開催

幕田今日子水彩画展

幕田今日子さん（S41年卒）

＊伊達市梁川美術館で開催

第四回 西会津国際芸術村公募展

学生大賞受賞者

「長谷川裕美作品展」（H21年卒）

＊ギャラリースペースS

第四十七回県高校新人体育大会 新体操競技

個人総合

一位・皇有理朱（二年）

二位・伊東成美（二年）

個人ボール

一位・皇有理朱

六位・伊東成美

個人クラブ

一位・伊東成美

二位・皇有理朱

天栄長ネギ鍋コンテスト

優秀賞・久下千穂（高校二年）

佳作・鈴木麻里奈（大学・食物四年）、酒井榛香、浜尾美咲（高校二年）、早坂美香（高校三年）

第十八回 東北高校新体操選抜大会

個人総合

八位・皇有理朱

十三位・伊東成美

個人ボール

十一位・皇有理朱

十七位・伊東成美

個人クラブ

七位・伊東成美

八位・皇有理朱

平成二十二年度福島県高等学校新人体育大会 剣道競技

団体第三位

新任職員のご紹介（十月一日付）

横田　英隆
経理部次長

安積高校、早稲田大学商学部卒業。東邦銀行からの出向。

先輩を訪ねて

佐場野 翔子 さん
●平成13年度短期大学部音楽科卒業
●福島県立大笹生養護学校教諭

学生時代に音楽療法と出合い、音楽を生かして障がいをもつ子どもたちを支援することをめざした佐場野さん。

短大を卒業後、玉川大学で学び、今は福島県立大笹生養護学校の中学部で音楽の教諭として活躍されています。

「子どもたちが私のピアノ演奏を聴いて笑顔を見せてくれるときなど、音楽で心が通じた瞬間はこの仕事をしていて本当によかったと思います。まだまだ専門知識や経験等いたらない点は多々ありますが、これからさらに専門性を深め、音楽を生かしながら、子どもたち一人ひとりの個性に合った支援ができる教員になりたいです」

毎日、何時間もピアノの練習に打ち込んでいたこと、先生からの毎週の熱いレッスン、定期演奏会などで建学記念講堂や文化センターのステージを踏んだこと……学生時代の思い出は尽きないとのことです。

「在校生の皆さんには、今しかできない様々な体験をしてほしいですね。学生時代という貴重な時間を大切にして、やりたいことに精一杯取り組んだことは、社会人になってから必ず役立ちます」と、力強いアドバイスをいただきました。

第百七十一回芸術鑑賞講座

ロダンに始まる創造の軌跡

近代彫刻の歩み―西洋と日本―

第百七十一回芸術鑑賞講座「ロダンに始まる創造の軌跡」展が九月二十八日から十月三日までの六日間、建学記念講堂で開催された。

木彫りしか知らなかった明治時代の日本に、ブロンズ彫刻(塑像)が入って百年の歳月がたった。特に大正期に紹介されたフランスのロダンの生命感溢れる作品は、日本人に衝撃をあたえ、近代彫刻の洗礼を受けることになった。

本展では、西洋の巨匠の作品十二点とロダンの影響を受けた舟越保武、佐藤忠良、本郷新を中心に、東北出身の桜井祐一、吾妻兼治郎に女流の朝倉響子、笹土千津子などの質の高い具象、抽象の作品四十二点と学園所蔵の二点、計四十四点が展示された。学生や生徒たちは、空間造形のおもしろさを身近に感じ、熱心に見入っていた。

近代の彫刻家の作品に見入る学生・生徒ら

平成二十二年度

短大音楽科・定期演奏会

短大・音楽科による第四十一回定期演奏会が十一月三日、建学記念講堂で行われた。

作曲家高田三郎の「水のいのち」から選ばれた「雨、みずたまり」など五曲の合唱から始まり、ピアノやヴァイオリン、クラリネット、声楽、管弦楽など学習の成果を披露した。

最後には附属高校生も参加した大編成の郡山開成学園オーケストラがハチャトゥリアンの「仮面舞踏会」を演奏。会場には多くの観客が詰めかけ、惜しみない拍手を送っていた。

フィナーレを飾った郡山開成学園オーケストラ

第百七十二回芸術鑑賞講座

鮫島有美子ソプラノリサイタル 日本のうた 世界の歌

第百七十二回芸術鑑賞講座は十月十三、十四日の両日、国内外で活躍中のソプラノ歌手鮫島有美子さんをお招きしてのソプラノリサイタル。

鮫島さんはピアニスト小川典子さんの気持ちのこもった演奏で「日本のうた　世界の歌」をテーマにシューマンの「メアリー・スチュアート女王の詩による五つの歌曲」や、日本を代表する「小さい秋みつけた」「一本の鉛筆」など二十曲を披露。清楚で艶やかな歌声に学生、生徒は感激していた。公演終了後、短大・音楽科の学生全員に鮫島さんと小川さんからサインがプレゼントされた。

鮫島さんの美しい歌声

県明るい選挙啓発ポスター

杉山さんが一等に

県選挙管理委員会による本年度の明るい選挙啓発ポスターコンクール高校の部で、附属高校一年の杉山萌さんが一等、二年の渡邊裕理佳さんと三年の角田未来さんがそれぞれ二等に選ばれ、中央審査(全国大会)に出品された。二年の小山美貴さんも三等に選ばれた。

高校生の部1等の杉山さんの作品

赤い羽根募金で

二一三、八〇六円の善意

―学友会・生徒会―

本学友会と本校生徒会は助け合い運動の一環として学内で十月から募金活動を行い、二一三、八〇六円の浄財を得た。十一月十一日、大学学友会長高橋沙也加さん、短大学友会長鈴木真由美さん、高校生徒会長古川ほのかさんの三人が県共同募金会郡山支会へ委託した。

太宰待子准教授が個展

―力作を展示―

短大・太宰待子准教授(福祉情報専攻)の染色展が十一月二十七日から十日間、郡山市駅前のギャラリー観で開催された。型染による着物、帯、額絵、タペストリー等百点が展示され、訪れた人々の目を楽しませた。

浅野アキラ展　福島で開催

―「夢みるタマシイⅢ」―

短大・浅野章准教授(生活芸術科)の個展「夢みるタマシイⅢ」が十一月十六日から福島市大町の三桜社画廊で開催された。「故郷の原風景、故郷の風景画、人は何処から来て何処へ行こうとしているのか」という深いテーマの三十五点の力作が展示された。

本学所蔵

紙上美術展63

「虫の目世界」写真展

ハッチョトンボ

キアゲハ

トウキョウダルマガエル

第百六十七回芸術鑑賞講座で九十点展示された。

福島民友新聞社編集局写真部・矢内靖史副部長が「虫の目レンズ」を使用し撮影したもの。「虫の目レンズ」は、小さな被写体を大きく撮影できると同時に、背景まで写し込める。県内各地で写真展を開催。著書は『ウオッチング・ふくしまの生き物たち』『ふくしま虫の目探検』など多数。福島県虫ファウナ調査グループ、福島虫の会、日本野鳥の会福島支部、日本冬虫夏草の会、里山保全クラブ所属。写真展終了後、十二点が附属幼稚園へ寄贈された。

木もれ陽

私たちは、自分の成長を日々願っている。成長とは変革と言い換えても良いと思う。自分をどうすれば変革できるであろうか。それには過去(＝歴史)を知ることであろう。なぜなら私たちは、過去の歴史の経験に基づき未来に展望を抱き現在を変革していくからである。

『それでも、日本人は〈戦争〉を選んだ』という日本近現代の歴史書がある。この書は、二〇〇七年、ある大学教員が中学生と高校生を対象に行った五日間の集中講義をまとめたものである。世界と日本の過去の歴史が中高生に噛んで含めるようにひとつひとつデータに基づきながら分かりやすく説明されている。

若者たちが未だ見ぬ未来を予測しそこに人間の幸福の展望を描く時、過去の歴史的事例がどれだけ頭や心に豊かに蓄積されているかは決定的に大事なことであろう。複雑な歴史の内容を扱ったこの連続講義が、中高生対象に行われたことが何より素晴らしい。この講義は、クリスマスから正月にかけてなされた。

学園の生徒学生諸君も、今多忙な時期であろうが、年をはさんでじっくり過去の歴史と向き合うのも良いと思う。現在の自分を変革するために。

(均)